

グリーントマト

発行責任者 中田慶子
〒850-8799長崎中央郵便局 私書箱第7号
FAX 095-832-8488 DV防止ながさき
HP : <https://www.no-dv-nagasaki.net/>
E-mail : dv_greentomato@yahoo.co.jp
郵便振替口座 01730-6-103415

新型コロナは女性を直撃

新型コロナ感染症で、長崎でも、飲食店は時短、公的施設や観光施設は閉鎖と、緊張が続きました。私たちも、参加者が楽しみにしているサロンは一時休止、学習支援にも支障が出るなどハラハラしながら過ごしています。

コロナはすべての人に影響を与えていますが、特に女性への影響は深刻です。内閣府が4月28日に公開した資料「コロナ禍の女性への影響と課題に関する研究会報告書」では、昨年度の全国のDVの相談件数が19万件で前年の1.6倍に増え、精神的暴力や経済的暴力の相談が目立ったこと、また女性の自死者が前年比で935人増加し、特に無職の女性や女子高校生の自死が増えたことも報告されました。従来から女性はパートなど非正規労働が多かったため、特に宿泊、飲食業分野の女性の離職・解雇が増え、反対に、看護、介護、保育などのケアする職場のニーズは高まっています。

報告書は「もともと平時においてジェンダー平等・男女共同参画が進んでいなかったことが、コロナの影響によりあぶり出されたものと考えられる」と述べています。高度経済成長期に作られた制度や慣行が、働き方や家族の在り方が大きく変化している今の社会には合わなくなっていることが明らかです。

統計を見るまでもなく、支援の場での日々の感覚からは、コロナが女性たち、とくに暴力を受けている女性や子どもたちに大きな影響を与えていることは明らかです。コロナで、これまで見えなかった課題が表に出て来た今、働き方を変え、お互いに支えあって生きていける社会の仕組みに変えていかないと、将来、子どもたちから、「大人はあの時、何でがんばらなかったの?」と言われてしまうでしょう。

ワクチン接種も始まっていますが、住民票地にワクチン接種券が送られることが前提なので、住民票地から離れているDVや虐待の被害者、定住先がない方などはどうしたらいいのか。昨年の特別給付金の時も同じ事がおきました。制度からこぼれる方、主張しにくい立場の方への目配りには想像力が必要です。

これからも予想を超えた変化が起きるかもしれません
いろんな立場の人への想像力を持ち、助けを求める
ことは恥ではなく権利なのだと、誰もが思えるよ
うな社会にしていきましょう。

理事長 中田慶子



第19回定期総会について

6月10日（日）のNPOの定期総会は、コロナ感染症予防のため、書面議決で行い、2020年度の活動報告・決算・2021年度の活動すべての議案が承認されました。

今年度も変わらず活動してまいります。よろしくお願いいたします。



2020年度の活動から

デートDV予防教育

2020年度は大学・専門学校3校、高校30校、中学45校へ実施し受講した生徒の総数は、10,225人となりました。

新型コロナウイルスの影響で予防教育が取りやめになった学校も多く、年度当初は、例年の半数になるかもしれないと心配していましたが、年度の後半には中学校からの依頼が増え、中学校は例年と大差なく実施することができました。

受講した生徒からは「誰もが平等に一人の人間として生活できる社会になってほしいです」

「男性・女性という性の隔たりをなくし対等に接することが大事だと思った」

「子供には責任がないという言葉聞いて、心から安心することができました」

「保健でも教えてくれないような内容はとても良かった」

「将来役に立つ知識だと思う」など、たくさんの感想が寄せられています。

長崎県では高校の3年間の間に一度は予防教育を受けられるようにと、県教委も取り組んでいます。

中学の予防教育は、自治体での取り組みが年々増え、長崎市、佐世保市、大村市、諫早市、壱岐市、雲仙市、平戸市、長与町の各市町では、自治体の担当課で予算化して実施しています。

毎年、8月には予防教育の講師養成講座をしています。関心がある方はぜひご参加ください。

詳しくは、7月にHPに予定を掲載しますのでご覧ください。

（今年もコロナ対策でオンライン講座になります。遠くからでもご参加できます。）

相談・支援の事業

「長崎県DV被害者等総合支援事業」について

長崎県が長年NPOに委託してきたDV被害者等の自立支援事業は、全国的に注目されている事業で2020年からは、国のパイロット事業として実施中です。DV被害を受けた方の生活再建のお手伝い、役所や病院への同行、調停や裁判の同行など多くの関係機関と連携・協力しながら、ひとりひとりのニーズに寄り添った地道な支援を続けています。

他にも、母子平行心理プログラムの実施、学習支援や研修の充実などにも取り組んでいます。

必要な活動はたくさんありますが、まずはできることから着実に進めていこうと考えています。

このように活動が充実してくる一方で、支援や予防教育の人材育成も急務となっています。当会も発足して18年となり、平均年齢が高くなっていますが、若く意欲的な会員の参加も少しずつあり、未来への希望を感じています。

（活動に関心ある方、ぜひご連絡ください！！）



予防教育って効果があるの？

DV防止ながさきが、2004年から予防教育を初めてから、17年がたちました。では、はたして、その教育は効果があるのか？。当会も参加している「デートDV防止全国ネットワーク」では、2020年、全国の5地区で、予防教育の効果測定を行いました。結果は「効果あり！」でした。中学生743人に対して予防教育の事前事後にアンケート調査を行ったところ、どんなことが暴力なのかという「暴力の認知」、暴力をどのくらい許せるかという「暴力の許容」、男女差についての意識「ジェンダー観」の3つの指標が、授業の前後で、良い方に変化していることが統計的にも意味のある数値で示されました。（調査の分析は合同会社Cono-baseが実施）。今後も、この調査は続けて行き、どんな内容が効果的かなど、検証を進めていく予定です。

台湾のDV防止教育は？

先述のデートDV防止全国ネットワークでは、毎年3月に、東京でスプリングフォーラムを開催しています。でも昨年はコロナで中止。今年はオンラインで開催し、全国から参加しやすくなりました。今年の基調講演は、台湾のNGO「The Garden of Hope」の責任者、王珮好さんに、台湾の法律と予防教育について話していただきました。（この講演の動画は、全国ネットワークのホームページ <https://notalone-ddv.org/> で見ることができます）。

台湾では、家庭内暴力防止法、性的暴力犯罪防止法、ジェンダー平等教育法の3つの法律で、小学校から、暴力防止や性暴力防止、ジェンダー平等の教育が義務化されており、すべての子どもたちが学ぶことができます。

日本の現在の配偶者暴力防止法では、防止教育については漠然と啓発や教育をすること、といった条文があるだけで、内容や時間数についての規定はありません。

DVだけでなく虐待、性暴力をなくしていくために、法律をより有効なものへと変えていくことはとても重要だと講演を聞いて痛感しました。今後もしっかり国へも働きかけ、法改正の動きにも注目していきたいと思います。（中田）

《 お知らせ 》

今年も「DV根絶のための連続講座」開催します

11月28日を含めた前後の日曜日の1日を予定
9：30～16：30

長崎市市民会館アマランスの研修室で実施します。例年通りアマランスとの共催です。市や県の支援機関、警察、加害者プログラム実施者などに、毎年講師をお願いしています。新しい情報を得るためにも、毎年ぜひご参加ください。

チラシを8月には準備してHPに掲載しますので、お知り合いに拡散お願いします。



第19回定期総会記念講演「多様性と可能性」

2021年5月30日(土)、コロナの影響により記念講演はリモートでの開催でしたが、講師に「Take it! 虹」代表の儀間友里香さんをお迎えし、性的少数者について参加者が学びを共有しました。



私個人的には儀間さんのお話を聞くのは初めてではありませんでしたが、基礎知識から新しい情報まで盛りだくさんで多くの学びがありました。

特に印象に残っているのは儀間さんが自分の性に違和感を感じたことがない事は特権だと言われ、自分の中の『当たり前』が決して当たり前ではないということでした。

その一つの例として、儀間さんが書類等の性別のチェック欄について挙げられました。戸籍上の性別も性自認にも全く違和感を持つことなく生きてきた私からすると、性別を聞かれたら女性と答えるのは『当たり前』で、そこに疑問を持ったことなど勿論ありません。

でも儀間さんはその当たり前が特権だとおっしゃるのです。

「特権なの？」というのが正直な感想でしたが、私の中にある『当たり前』はこれまでの生活習慣や経験によって創られた価値観でもあり、確立期間が長ければ長いほど迷いを感じることもなく、きつと無意識に行動や言動に現れているのだと思います。

そしてそれは他者には、私の個性として受け取られていると思います。

そう考えると皆それぞれ違う環境の中で生活をしているのだから、価値観や考え方に違いがあるのは『当たり前』というわけです。

日本では家に入る際に靴を脱ぐ家庭が多数派ですが、他の国ではそうとは限りません。

どちらが正しいわけでもなく偉いわけでもなく否定する必要もない。

人間も同じだと思います。

性別や生き方は誰かに決められることでもないし、評価されることでもありません。

性的少数者に限らず全ての人たちが自分らしく生き、自分の『当たり前』が他者に否定されることなく、多様性を認め合える社会を実現するために、私にもできる小さな1歩として、私の当たり前を見直すことから始めたいと思います。

ちなみに我が家では家族みんなが目玉焼きを食べる時にソースをかけて食べます。

これを話すと結構驚かれますが、我が家では何十年も続く『当たり前』なのです。

話したからって無理してソースを掛けて食べて欲しいわけではありません。

そういう食べ方もあるんだねと流してもらっていいんです。

ただ、そんなのあり得ない！と否定をされてしまうと辛いので、私も他者が目玉焼きに何を掛けて食べていても否定だけは絶対にしません。

他者を傷つけない、排除しない、ということはそんなに難しい事ではないのだということも、今回の講演で改めて気付くことができました。

日常生活の中でも仕事の中でも、今回の儀間さんの講演で学んだことをしっかり活かしていきたいと思えます♪

儀間さん、素敵なお話をありがとうございました！！(I・A)

DV予防教育指導者養成スキルアップ研修2021

毎年夏休みにDV予防教育の指導者養成・スキルアップ研修（長崎県委託事業）を実施しています。今年度も昨年度と同様にオンライン（ZOOM）で開催します。

<基礎講座>

日時：8月21日（土）9：30～16：00

<授業演習1>

日時：8月22日（日）10：00～12：00

<授業演習2>

日時：8月22日（日）13：00～15：00

<授業演習3>

日時：8月28日（日）10：00～12：00



詳細が決まり次ましたら、ホームページでご案内します。7月にはUPする予定ですので、ご確認ください。またここ数年、研修に参加者されている方には、直接文書で案内を出す予定です。

予防教育をやりたい！スキルを上げたい！と思う方は、ぜひ参加ください。

参加者には毎年、更新改定した教材をお渡ししています。

また実際の授業の見学をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

T/F 095-832-8488 dv_greentomato@yahoo.co.jp

今年のサラリーマン川柳にモヤモヤ！

私も毎年楽しみにしているサラリーマン川柳（第一生命保険募集）ですが、今年は読んでモヤモヤしました。

第1位：会社へは 来るなと上司 行けと妻（なかじ）、

DVや虐待がある家庭では、どうにかして、夫や父親が会社でもどこへでも出かけて、家にいない時間が少しでも長いようにと、祈るような思いで過ごしてるので心が痛い。

第2位：十万円 見る事もなく 妻のもの（はかなき夢）

昨年の特別給付金、世帯主の口座に振り込まれたので、それこそお金を見ることもなかった妻や子がたくさんいたはず。DVや虐待で逃げてきた方が、なんとかこの給付金を受け取れるようにと、多くの方が奔走してくれました。でも夫と同居を続けていて暴力を受けている妻や子どもは、「私のぶんの10万円をください」なんて、怖くて言えないという方がとても多かったのです。



おすすめの本

「おしえて!くもくん」 小笠原 和美 著
著者の小笠原さんは、警察で長年性暴力の支援にかかわってきた。子供たちを性被害から守るために必要な知識が盛り込まれた、日本初のプライベートゾーン教育に特化した絵本。学校でも、家庭でも、大人が子供に読み聞かせをすることで、子供に知ってほしい大切なことを伝えることができる。すぐに使えるよう、様々なダウンロード特典もついていて便利。



「海をあげる」 上間陽子 著
「海が赤くにごった日から、私は言葉を失った」…
沖縄でフィールドワークを続け、風俗で働く若い女性への聞き取りをしている著者。ベストセラー『裸足で逃げる 沖縄の夜の街の少女たち』から3年、初めてのエッセイ集。

おびやかされる、沖縄での美しく優しい生活。幼い娘を抱えながら、理不尽な暴力に直面してなおその目の光を失わない著者。人の話に耳を傾ける、著者のその聴く力に圧倒される思いで、本を読み終わり、支援にかかわる人にはぜひ勧めたいと思う。

(筑摩書房)



「感じるオープンダイアログ」森川すいめい 著
ここ数年、あちこちで耳にして、すごく気になっているオープンダイアログ。ただ対話するだけで、どうしてこころが癒やされるの?

オープンダイアログ発祥の国フィンランドでは、対話によって、精神面に困難を抱えた人の8割が回復。学校や職場、家庭、議会でも「対話の場」が開かれ、大きな効果を上げているという。オープンダイアログの原則は、「その人のいないところで、その人の話をしない」「1対1ではなく、3人以上で輪になって話す」ただそれだけのことが、人の回復をもたらす。

支援の場で、当事者が除外されがちなことに疑問を持っていたところなので、とても納得のいく本でした。(講談社現代新書)



「発達障害のある女の子・女性の支援」川上ちひろ編
人間として、女性として、ちょっぴりアスペガールとして。発達障害のある女の子・女性の行動や抱える困難を理解するために、そして彼女たちの「多様な生き方」を支援するために、ライフステージごと・キーワードごとに、具体的な事例を通して、彼女たちの理解とサポートのあり方を紹介。（金子書房）

「家族と国家は共謀する」信田さよ子著
家族でなんでも乗り切ろう、ステイホームで頑張ろう、という言葉が、震災でもコロナでも言われると、DVや虐待の被害者はどうすればいいのだろうか。
この本では、明快に、家族は、以心伝心ではなく同床異夢。DV、虐待、性犯罪。最も身近な「家族」ほど暴力的な存在はない…という指摘はとても納得できる。絶え間ない加害に対し、被害者がとる愛想笑いも自虐も、実はサバイバルを超えたレジスタンスなのだ、エスケープでもサバイバルでも、レジリエンスでもないと信田さんの言葉は、明確そのもの。（角川新書）



ながさき加害者更生プログラム研究会から

☆加害者プログラムの第6クールが9月から開始、プログラム参加者募集中！☆

プログラムに関心のある方、自身のDVについて改善を希望される男性がいらしたら、ぜひご案内ください。

◎対象

「暴力をやめて、パートナーと尊重しあえる関係をつくりたい」と希望する男性。 ※ 年齢・職業は問いません

◎全18回（1セッション2時間）

◎毎週火曜日 19時～21時（場所は長崎市内）

◎内容・認知行動療法をベースにした、グループの心理教育プログラムです。暴力に結びつく信念や価値観への気づき、パートナーと尊重しあうコミュニケーション方法を実践的に学びます。

◎受講料 2万円（※6月末までに申込された方限定の割引料金）

※詳しくはHPをご覧ください。<http://www.nondv.com/>



7月から長崎市ふれあい
掲示板に掲載



今後のイベントのご案内 HPでもご案内する予定です

☆「ジェンダーを考える連続講座」 長崎市アマランス主催 <参加費 無料>

日 時：7月18日（日）9：30～15：30

場 所：アマランス研修室

締め切：7月17日（土） 託児希望の場合は7月11日（日）

申込先：アマランス 095-826-0018

詳細内容は、アマランスにお問い合わせください。

☆映画「プリズンサークル」

※コロナのため上映会が延期になりました！

【長崎】2021年8月22日（日）長崎市民会館文化ホール

【諫早】2021年8月28日（土）諫早文化会館中ホール

【上映時間】①11時 ②14時30 ③18時

【料金】1,200円

～連絡先～

長崎県映画センター 095-824-2974（平日10時から18時）

「プリズン・サークル」公式ホームページ <https://prison-circle.com/>



☆10月2～3日 長崎市アマランスフェスタ

市民企画講座 10月2日（土） 終日 アマランス

講演会 10月3日（日） 午後 詳細は8月のチラシにて



赤い羽根テーマ別募金にご協力ありがとうございました



昨年度2020年度のテーマは「DV被害者の再スタート支援のための家電製品の確保」でした。1月から3月という短期間でしたが、目標額600,000円に対し、733,000円のご寄付をいただきました。本当にありがとうございます。手数料を引いた697,000円は、被害者の方の自立のために大切に使用させていただきます。2019年度はハンドブック作成をテーマに募金をいただき、会からも費用を足して2021年2月に5万部を印刷し、授業の時生徒に配布するなど有効に活用しています。今年度も別のテーマでこの寄付事業に参加する予定です。寄付募集期間は、2022年1月から3月です。皆さまのご協力をお願いします。

DV防止ながさきの電話相談 ～ 必要な方へ情報を届けたい！

暴力を我慢する必要はありません。週4回、夜も電話を受け付けています。何度かけても構いません。秘密は守ります。名前を言う必要はありません。とにかく話してみませんか？ 夫や恋人との関係、今のこと、昔のこと、心に引っかかっていること。必要があれば専門機関へつなぐこともできます。

（面接は要予約です。安全な場所でお話をうかがいます。）

095-832-8484 月・水・土 13：00～17：00 月・水 19：00～21：00

080-2794-8022 火 17：00～20：00

